

劇場・文化ホールにおけるユニバーサルデザイン

社会福祉学科 コミュニティ福祉系 遠藤志穂

本研究は、劇場・文化ホールにおける車椅子利用者用の客席等ハード面の物的な支援と、現場スタッフによる支援を表すソフト面の支援の実状を把握した上で、今後の支援のあり方について検討することを目的とした。

今回調査の対象とした岩手県内の劇場・文化ホールでは、ハード面の整備や当時者の意見を聴取しての改修を積極的に行っていた。加えて、手すりやスロープを利用しても昇降が困難な方へのスタッフからの支援等、ソフト面からのアプローチも丁寧に行われていた。また、施設内外で様々な研修を行うことで、ハード面の理解度向上やソフト面の案内能力向上に繋がっていることが示された。

今後は、施設利用の実際が自分自身で把握しにくい視覚・聴覚障がい者に対しての情報発信が、より多様な人々の利用促進のために必要である。本研究を通し、既に行われている国内外での劇場・文化ホールにおけるユニバーサルデザイン実践を発展させていくことの重要性が明らかになった。